

チーム：ICHI グルメ
 メンバー：市ケ尾高等学校 出田遼聖 佐々木亜怜
 市ケ尾中学校 福地百葉 峰萌乃 桜井舞奈
 サポーター：松本茂 高康平 今井淳至 箕輪京四郎 垂澤優子

■問題意識と活動のねらい

(当初) 市ケ尾周辺は農地も多く、野菜や果物が栽培されています。地場野菜を使って中高生でレシピを考え、市ケ尾発のグルメで地域活性化を狙う。
 (途中から変更) 農家の方々を取材する過程で、農家の方々の要望を聞き、方針転換を図る。
 まずは、地場農産物の直売所や青葉区庁舎で行われているマルシェを地域にもっと知ってもらうための活動をお手伝いし、地場農家の方々が市ケ尾に住む方々がもっともって元気になって市ケ尾を活性化！

■具体的な活動内容

- ・11月3日に行われた区民祭りで、地場食材を使ったレシピ(料理)を売ることで地場野菜の良さをアピール。当日は天気もよく大盛況で、午前中に完売。
 (経緯) 市ケ尾商栄会青年部様にお声がけいただき、商店会事務所で実際に試作品を作って、レシピを検討。わさび菜を使用したサンドイッチ「さんどいっちがお」を作って販売することにした。
- ・地場農産物の直売所マップや青葉あおばマルシェ、農家の方々がマルシェに出店されている方々の紹介するチラシの作成と配布。
 (経緯) 地場農家さんやマルシェの取材を通じて、わかったことは、まだまだ市ケ尾(青葉区)在住の方々に、農産物の直売所やマルシェが知られていない現状を知った。
 市ケ尾にお住まいの方々に、直売所やマルシェにももっともって足を運んで欲しいと思い、中高生からの視点に立ったチラシを作成し、地域に配布してアピールをしたい。
 可能であれば周辺の小中高に全戸配布し、駅前での配布やはいご協力いただける商店会店舗の店頭でチラシを置かせていただく。

■活動を振り返っての感想

活動途中でメンバーの変更、活動方針転換等の苦難はあったが、活動を続けることができた。最初に立てた方針を貫いていくことも大事ではあるが、一方で、目まぐるしく変わる状況にうまく対応する臨機応変な対応力もこれからの世の中では必要な資質と思われる。そういった意味ではいい経験ができたのではないかなと思う。

■今後に向けたメッセージ

地域の学校の生徒、住民等と一緒に活動し、学校や行政一部企業が支援するという活動は、今までにない枠組みでの活動であった。特に生徒が中心に活動するというのは本人にとっても地域にとっても素晴らしいことだと思う。



チーム：わっしょい
 メンバー：市ケ尾高等学校 上村麻菜 山本愛 原千亜紀 佃夏葵
 市ケ尾中学校 石川南 中原慎乃祐 鈴木里穂
 サポーター：川本寿彦 近藤美恵子 野場隆司 中川隆政
 テーマ：わ-(わいわい) つ-つたえよう(伝えよう) し-しろ(知ろう)よ-よろ(寄ろう) い/いちがお(市ケ尾)

■問題意識と活動のねらい

市ケ尾を地域内外の幅広い世代に知ってもらおう。
 住んでいてよかった、住んでみたいと思ってもらえるように、市ケ尾をアピールする。

■具体的な活動内容

- 8月3日 中高生と大人のチーム‘わっしょい’結成
 誰でも参加でき、誰とも交流ができ、誰もが楽しめるイベントがやりたい。
- 8月23日 9月15日 「スタンプラリー」実施を決め、廻る所・スタンプの図案募集等を検討
- 10月4日 スタンプラリーデザイン募集案内の作成、募集回収箱の作成
- 11月3日 青葉区民まつりで「スタンプデザイン募集」の用紙を配布。用紙は高校生が作成、回収箱は中学生が作成した。余った用紙を市ケ尾中学校で配布、スタンプデザインは約200人より応募があった。
- 12月5日 市ケ尾駅前郵便局今井局長に市ケ尾商栄会加盟店にスタンプラリーの協力をお願いのため、企画書提出。当初は市ケ尾駅周辺の飲食店、公園など4コースを予定したが、時間的な制約などがあり、今回は絞って実施することにした。
- 1月9日 1月23日 /スタンプラリー実施計画を決定した。
 実施日時 協力店舗 スタンプ・チラシ・スタンプ台紙デザイン チラシ 2500枚の配布先 役割分担等
- 2月13日 (火)～18日(日) /スタンプラリー実施
 スタンプラリー参加者・・・約100名(親子、お孫さんと、小学生、中学生、大人他)
- 2月17日 (土)～18日(日) /スタンプラリー景品(チーム'まちに咲く花'作成の付箋)



■活動を振り返っての感想

- ①市ケ尾ユースプロジェクトに関わって、「市ケ尾」というまちに関心を持つ事ができた。スタンプ案はいろいろな人にデザインしてもらい、まちの魅力がさらに伝わるものがあった。
- ②この活動を通して、チームワークの大切さや実行することの大切さを学ぶことができた。考えを実際に行動に移すのは高校生や大人の凄さだと思った。
- ③高校生や地域の方々と関わる機会がないので、とてもよい機会になった。一つのスタンプラリーを作るのにも、たくさんの人と話をしたり、アイデアを出したりするのが大変だな、と思った。
- ④この企画に参加したことで、自分も地域の一員であるという自覚を改めて持ち、地域をどうしていくか考え実行していくのは、他ではない自分たちであるという責任感を得る事ができた。
- ⑤最初の頃、スタンプラリーはしたいけど、どうすればいいのか分からなかったが、ついに現実味を帯びてきて、実現することができ、感慨深いものがあった。また、この活動を通して年齢を超えた貴重な関わりができたと思う。
- ⑥様々な視点から見ることや自分とは違う立場の意見を聞くこと、積極性・計画性の大切さ、物事を遂行する時の責任感など多くのことを学ばせてもらった。
- ⑦この企画が始まってからの前半の期間はなかなか事が進まないことにもどかしさを感じていたが、いろいろな事が決まり出したらあっという間で、一気にスタンプラリー実施が現実味を帯びてきた。毎回の話し合いで時間が足りず決定を出せないまま終わってしまったり、人数が多い分話がまとまるのに時間がかかってしまったりということはあったけど、どれも有意義な時間でそこから得るものはたくさんあった。

■今後に向けたメッセージ

「PLAN-DO-SEE」を体験し、「継続は力なり」でチャレンジしましょう！

